

第４回大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会

日時 令和２年８月２６日（水） 午後１時３０分
～午後３時

場所 リアスホール１階マルチスペース

次 第

１ 開 会

２ あいさつ

３ 報 告

第３回大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会について【資料１】

４ 協 議

大船渡市スポーツ施設整備基本計画（素案）について【資料２】

※ 前回会議（第３回会議）の資料を使用します。

５ そ の 他

６ 閉 会

大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会 委員名簿

任期：令和２年５月２９日から所掌する事務が完了する日まで

(五十音順)

氏 名	所 属 等	備 考
浅 沼 道 成	国立大学法人岩手大学人文社会科学部 教授	
上 村 弥	一般財団法人大船渡市体育協会 事務局長	
上 関 み さ	大船渡市健康づくり推進員	
熊 谷 侑 希	NPO 法人さんりく WELLNESS 代表	
古 座 勝 利	一般社団法人岩手県建築士事務所協会 気仙支部 事務局	
金 野 敏 夫	社会福祉法人大船渡市社会福祉協議会 事務局長	
佐 佐 木 浩 美	大船渡市男女共同参画審議会 会長	
志 田 秀 香	大船渡市社会教育委員	
鈴 木 弘	一般社団法人大船渡市観光物産協会 事務局長	
高 橋 大 樹	一般公募	
谷 山 誠 志	大船渡市スポーツ少年団本部 本部長	
新 沼 邦 夫	大船渡商工会議所 専務理事	
新 沼 良 治	立根地区公民館 館長	
三 宅 肇	一般公募	
山 口 康 玄	一般社団法人大船渡青年会議所 理事長	

2 報告

(1) 第3回大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会について

令和2年8月6日(木)、シーパル大船渡において標記会議を開催した。概要については、次のとおり。

〔会議内容〕

1 開 会

2 あいさつ（新沼委員長）

本日は大変お忙しいところ、前回は雨の中であつたが、今日は大変暑い中でお集まりいただき感謝申し上げます。第1回目の会議では所掌事項とスケジュールについて、第2回目の7月8日には、課題となっている市営球場や赤崎グラウンド、三陸総合運動公園等の施設見学を行い、認識を深めたものと考えている。いよいよ本日から検討委員会の本番となる。委員の皆様にはそれぞれの立場から忌憚のない御意見を頂戴し、協議を重ねて参りたいと考えている。本日はよろしくをお願いしたい。

3 報 告

第2回大船渡市スポーツ施設整備基本計画検討委員会について
事務局より、資料1のとおり説明した。
→ 意見等特になし。

4 協 議

大船渡市スポーツ施設整備基本計画（素案）について
事務局より、資料2，3，参考資料のとおり説明した。
〈意見・質疑応答〉

I 計画策定にあたって

- ・ 1 ページの文中において、大船渡市スポーツ推進計画で「定められた」という表現と「策定した」という表現がある。「定められた」は受け身的に感じられるが、計画策定時からの組織改編の影響を考慮して、使い分けを意識的にしたものか。「定めた」と主体的に記載する必要があるのではないか。（鈴木弘委員）
→ 「定めた」に修正させていただきたい。（生涯学習課長）
- ・ この計画は、国のガイドラインに基づいて策定すると前書きがあつたが、3 ページの計画期間についてガイドラインでは10年以上で設定するよう求められている。9年という半端な期間にしたのは、スポーツ推進計画に合わせたからということではよろしいか。（鈴木弘委員）
→ 令和2年度から10年度まで、1年短くなるが、スポーツ推進計画に合わせる形にしたものである。（生涯学習課長）

II 本市の現状と課題

- ・ 6 ページの歳入・歳出について、震災以降、復旧・復興の関係で国から予算がついていたと思うが、震災前の市の予算はどのくらいだったのか教えていただきたい。（上村

弥委員)

→ 平成 22 年度の当初予算は、一般会計ベースで 190 億円程度であった。(生涯学習課長)

- ・ 9 ページのグラウンドについては、「利用件数は、ほとんどの施設で前年度からほぼ横ばいで推移している。」とあるが、7 つの施設のうち 4 つの施設で大幅に増減しているのに、ほぼ横ばいという表現はいかがなものか。また、利用者数についても、「多くの施設について横ばいですが」とあるが、三陸総合運動公園のほかにも 1,000 人近く増減している施設がいくつかある。こういう表現で正しいのか。(鈴木弘委員)

- ・ 10 ページでは、「市民体育館については、前年度から微増し、」とあるが、率でいうと 8 % 増加しており、果たして微増なのか。また、三陸体育館についても、率でいうと 50 % 以上増えていると思うが、こういった表現で適切なのか。(鈴木弘委員)

→ もっと細かい分析ができればよかったが、大きくまとめたところがある。増減の表現については、検討させていただきたい。(生涯学習課長)

→ 補足して、参考までに、山村広場や田中島グラウンド、市営球場については、復旧や復興の状況によって極端に利用状況が変わってきているということを御理解いただきたい。(上村弥委員)

- ・ 事情は理解しているが、前年度との比較の部分の表記が気になる。(鈴木弘委員)

→ 細かく見ながら、グラフに合う表現に修正していきたい。(生涯学習課長)

- ・ 今の部分に関連してくるが、13 ページの経過年数も、単純に建てた時からの年数が書いてあるが、施設にいろんな手が加わったりしているので、もう少し丁寧に説明、表現した方がわかりやすい。例えば市営球場なんかは、すごく年数は経過しているが、先日実際訪れてみるとグラウンドはすごくきれいな状態であった。(浅沼道成委員)

→ 承知した。(生涯学習課長)

- ・ 14 ページに「市民ニーズへの的確な対応」とあるが、21.5 % が施設整備に満足していると答えている。同じく 22.5 % は施設利用に満足しているようだが、記述には「上昇傾向にあるものの高いとは言えず」と書いてある。他の市町村と比較した場合や、大船渡市が「満足度は高い」とする数字はどの程度なのか。何 % くらいであれば、標準的なのかよくわからない。(新沼邦夫委員長)

→ 他の市町村との満足度の比較については、アンケートの手法、項目等が違うので単純な比較はできないと考えている。高くないと判断した理由は、同じ市民意識調査の中で様々な施策についての問いがあり、例えば子育てに関する分野の満足度などは 50 % を超えている。他の政策項目と比べて、20 % は高いとは言えないことから判断した次第である。(協働まちづくり部長)

Ⅲ スポーツ施設の評価手法（全体）

特になし

Ⅳ スポーツ施設の現況評価（1 次評価）

- ・ 19 ページの表 6 で 1 点、26 ページで 1 点お尋ねしたい。表 6 の B と C の評価基準のところで、B には「必要な対応がなされているが、改善の余地があるもの、若しくは対

応を予定しているもの。」とあり、これはわかる。必要な対応はなされているけども、まだこれからやることがあるし、既に予定が立っているからBというのはわかった。しかし、Cのところの「必要な対応がなされているが、改善されていないもの。」について、必要な対応の捉え方、必要な対応がなされているのだったら（当然改善されているだろう）、と思う。全部の表現を統一するためにこのような書き方になったのだろうが、気になる表現である。検討いただきたい。26 ページについて、この整備計画の大前提は「市民のニーズへの対応」があると捉えている。そのニーズに応えていくのであれば、例えば市営球場、たしかに古い施設で、整備手法は「再整備又は廃止」となるとどちらを選択するかとなった時に、市民がどう思っているかが必要になってくると思う。利用人数が減ることは、人口も減っているので仕方ないことだと思う。ただその中でも、ある年代はここを求めているとか、そういう市民ニーズに応じながら進むことを期待している。（志田秀香委員）

→ 表6の記述については、事務局で精査させていただきたい。26 ページの評価結果は、あくまで現況評価で、施設自体が今どのような状況なのか現状を評価したということなので、次の2次評価を行っていく中で政策優先度を検討して判断していく。市民ニーズの反映という部分については2次評価以降で行っていくものである。（生涯学習課長）

- ・ 2次評価があるということはわかっている。評価結果はこれはこれでいいと思っている。ただ、今後の手法となった時に、やっぱり市民のニーズに応えていってほしいという希望である。（志田秀香委員）

→ 先ほどの回答に重ねて、2次評価までは国のガイドラインに沿った客観的な評価を示していくものであって、今日はここまでだが、市民ニーズを踏まえてといった部分については、次のステップである個別施設計画のところで示していく予定である。（協働まちづくり部長）

V スポーツ施設の環境評価（2次評価）

- ・ 32 ページ(2)総量コントロールのB&G海洋センタープールについて、実際稼働率が下がっているというのは事実だが、東日本大震災後に、市民体育館脇にあった旧市民プールを廃止する時に、水泳協会や市民からも存続の要望が出されたが、市当局ではYSセンターやメイワエアロビクスのプール、B&G海洋センタープールの存在を理由に廃止した。B&Gプールについては、設備を充実させていくこととしていたものの、その後改修要望しているにも関わらず、そのままの状況でずるずる来ているところだ。また、プールについては、市ではなくB&G財団が整備したものである。「廃止」にあたって財団との整合は取れているのか。勝手に廃止しますとはできないと思う。当センターは現在特A評価をいただいております、財団からの補助金も使える状態である。財団との話し合いがされているのか確認したい。（上村弥委員）

→ B&G財団から特に確認したというわけではなく、環境評価がこうになるというだけで、実際に廃止するかどうかはこれから検討していくことになる。（生涯学習課長）

- ・ 確認だが、1次と2次の評価であってそれ以降についてはみんなで検討だと思っていたら、もう結果が出てきた。どこまでこの会議でやるのか、これ（評価結果）をただ了承するだけなのか。ちょっとよくわからない。（浅沼道成委員）

- (あらかじめ定められた) 整備の基本方針であったり適用手法がこのように評価したということで、具体的な施設の整備についてはこれから、施設ごとに個別に計画を立てていくということになる。(生涯学習課長)
- ・ ということは、今後もこの会議が何回あって、今日の資料の後ろにその計画がくっついてくるとのことか。(浅沼道成委員)
 - 年度ごとに事業費が入ってこういう整備をする、という具体的なところまではなかなか難しいが、前期はこのような整備、後期はこのような整備という形で施設毎の計画を作っていきたいと思っている。(生涯学習課長)
- ・ ここでいう基本方針の「決定」とは何か。(浅沼道成委員)
 - その辺の表現は誤解を招くような表現は修正したいと思うが、こちらからも1点、言葉足らずの部分があるので補足したい。32ページのB&G海洋センタープールについて、国の手法を踏んでいくと「廃止」となるが、34ページでは「※存廃について検討」としている。ガイドライン上では「廃止」の区分になるが、今の段階では廃止という決定的な表現はすべきでないと判断し、存廃についてきちんと検討していくべきだと考えたものである。
 また、目次の2枚目にあるとおり、評価結果以降の個別施設計画、主要施設の詳細検討については、まさに昨年のスポーツ施設整備検討委員会からの報告書や市民ニーズを踏まえた上で記載して、しっかり仕上げていきたいと考えている。(協働まちづくり部長)
- ・ 表記の問題として、33ページ(3)施設不足の解消において「市民テニスコートについては、「新規整備(拡張整備)」を検討します。」とあるが、32ページ(2)総量コントロールの記述と同じく「適用手法を「○○」とします。」とすべきではないか。
 それから先ほどの部分(34ページ)について、適用手法からいくと表記は「廃止」でいいと思う。廃止だけでも、市民ニーズ等の問題もあるので存廃について検討します、という流れにしないと、表と表記がバラバラになってしまう。(鈴木弘委員)
 - 統一する表現で修正したいと思う。(生涯学習課長)
- ・ 既存の14施設に関しての議論を今しているわけだが、結局、一つ一つ評価してどういうふうに整備していくのか決めていく、ということなのか。例えば、評価をしながらその中で、話は飛躍するが、総合運動公園を作っていきましょうといった話も可能なのか。もっと大きい話(新規整備)もあるのかと思って、参加している部分もある。
 加えて、中赤崎地区にスポーツ交流ゾーンができるとか、新しい球場ができるといった噂がちょこちょこ聞こえてくるが、そういう情報も記載がないし、ただ、そういう話も含めて全体を考えていかないといけないと思う。今後の進め方がどういう方向に進んでいくのか疑問がある。(三宅肇委員)
 - 基本的には、この計画は今ある施設をどう整備していくのかという計画になる。その中で施設の不足があれば整備していきましょうということにはなるが、現状を見れば、人口は減っているし、新しく施設を整備していきましょうとはなかなかない。今ある古い施設を更新しましょうとか機能改修をしましょうといった議論は出てくると思うが。現に、長洞地区に予定されていた総合運動公園構想を断念した経緯もある。今ある施設をいかに整備していくかを議論していただきたいと考えて

いる。(生涯学習課長)

- ・ 今答えをいただいたような気もするが、今ある14施設の総量をベースして、増やすという発想はなくて、この中でどの整備なると思う。この中でできることを探っていくのだろうと感じた。この中でどう機能を分けていくのか。既存のものを完全になくして、新たな場所に移してというのはありなのでは思う。昨年度のスポーツ施設整備検討委員会からの報告書も拝見したが、それなり評価して書いてあるのでこれも生かしていかないと思う。なんとなく行政側の意図が見えるので、それを踏まえて私たちが意見を出していくのがいいのかなと、今のこの形にプラスアルファで、委員がそれぞれの立場からの意見を乗せて形にしていくのかなと思う。なんとなく、決められたものに、はいと言いなさいと言われているようにも感じたが、そうではないと思うので、このように理解した。

また、気になったのは、政策優先度の評価のところ、市営球場に対する評価が本当にこれで合ってるのかなとは感じた。希少性とか広域との関係とか、関連するものはたくさんあるはずなのに、それが無視されているし、利用に関しても費用がかかっている割には収入がないとか、あとは、硬式の方々には申し訳ないが、軟式にはいい施設じゃないかと感じた。軟式を中心とすればいい球場だと思う。政策優先度が高い、となると独り歩きしそうな気もしたので、ここの表記はちょっと考えてもいいのかなと感じた。

(浅沼道成委員)

- やはり、市内に一つは野球専用のグラウンドがあるべきと思い、政策優先度は高いと判断した。また、陸前高田に立派な球場ができたが、単体で大きな大会を呼ぶのは難しいので、近隣自治体で連携してそうした大会を呼ぶためにも、大船渡市にも専用の球場があった方がいいだろうという考えである。(生涯学習課長)

- ・ 市営球場に関しては、たしかに軟式をやるにはいい球場だと思う。ただ、あれ以上お金をかけて施設を良くしていくことはできないし、あり得ないと思っている。最低、硬式野球ができるグラウンドが1つはほしいと思う。陸前高田市に球場ができたからいいのではないかという意見もあるが、逆に、陸前高田市にもある、住田町にもある、大船渡市にもあれば3つの球場を使って、硬式の大会を持ってくるとかができる。仕事で携わったが、陸前高田市の球場はたしかに立派だ。プロ野球の二軍まで呼べるような球場だ。あそこまではいかにしても、高校野球ができるくらいの球場はあっていいなと思う。(三宅肇委員)

- ・ 逆行するかもしれないが、前回の会議で「夢を語る会議」という話があったと捉えている。私が見る限り、市内のスポーツ施設で満足するものはほとんどないと感じている。大会を誘致するといっても、市民体育館ですら大会側があまり来たいと思える施設ではないだろうし、運営側も大変だろうと思う。隣のテニスコートも観客席がない。こういう状態で大会を誘致するといってもそれは無理な話であって、野球場にしてもしかりである。実は高校時代、市営球場で野球をしたことがあるが、ファールボールがどんどん飛んで行って、観客がとても危ない。また、スタンドそのものが狭いので球場の外にもボールが飛んで行ってしまう。たしかに土(グラウンド)は良いが、もう少しいろんな形で整備に検討が必要だろうと考えていた。

今回こういう会議を開くのであれば、市全体のスポーツ施設を見直しとかがあってもいいのかなと期待していた。どうしてもお金がないというのであれば仕方がないが、少し

でもそういう話ができればいいなと思う。また、市としてどのスポーツに力を入れていくのか、それによって施設を考えていくとか、大会を開くにしても主となるスポーツを優先していく、企画していくという施策があってもいいのではないかと考えていた。(新沼良治委員)

- 施設の評価がこういう形で表れてくるのは仕方ないことだと思う。ただ、この14施設の中で優先順位などを示していかないと。例えば市営球場に関して、既存の施設の中で拡張はできないとか、いろんな理由があって新たに整備しなくてはならないといったことも考えられるだろうし、体育館についても、駐車場が狭いとか弱者（高齢者や障がい者）が2階に上がれないなどのいろんな欠点もある。テニスコートの整備も前回のスポーツ施設整備検討委員会で提案されていた。この14施設の中でも整備していかなければならない施設はたくさんある。優先順位とか整備の規模とか、ある程度この計画の中で決めていかないとなかなか先に進まないのではないかと考えている。(古座勝利委員)

→ 今いただいた意見については、次の段階でさらに議論を深めていかなければならない内容と感じている。いわゆる次のステップについては、いただいた意見を参考に原案を作成したいと思っている。今日の内容は、あくまで国のガイドラインに沿ったものであり、さらにその先の広域性とか競技人口とか、そういうものを踏まえたものは、個別施設計画以降の内容で原案を定めていきたいと考えている。総合運動公園の話などもあったが、計画の冒頭でも市総合計画や公共施設等総合管理計画との整合が大事だと述べた。公共施設はスポーツ施設以外にもたくさんの施設がある。基本的には長寿命化を図らざるを得ないという大前提があり、そういう前提のもとで、このスポーツ施設整備基本計画も整合を考えなければいけないし、スポーツ推進計画との折り合いもつけなければならない、公共施設等総合管理計画との整合を図らなければならないということは御理解いただきたい。

市営球場と市民体育館、テニスコートの3施設については、市民の声を十分に踏まえて、個別施設計画の全体部分の後になるが、特に検討を深める施設としてあげさせていただいている。そういった流れを御理解いただきたい。(協働まちづくり部長)

- もう一度確認させていただきたいが、1次と2次の評価は国のガイドラインに沿った形で評価するということですね、ということだと思うが、問題は、文言の中で「決定する」とか「〇〇とする」といった表現があるので、皆さん混乱しているのではないかと。これから14施設が主となるわけだが、どうやって維持し、市民ニーズに合う形で考えていけばよいのかというのを議論いただくという理解でよろしいか。(新沼邦夫委員長)

→ そのとおりである。(生涯学習課長)

- 夢を語るという話があったが、これから、少子高齢化や人口減少の進行、財政状況の逼迫、その中で市民のニーズを捉えながら、皆さんで知恵を出し合って健康とスポーツの振興を考えていく場だと確認できたと思う。(新沼邦夫委員)

- 三陸体育館の耐震性について、日常活動を行う上で耐震性は大丈夫なのか。それに関連して、学校施設に移行してから耐震工事を行うのか。一般的な安全性を考えての

回答をいただきたい。(上関みさ委員)

→ 三陸体育館は法令上、耐震診断の義務のない施設になっている。まだ診断していないので、耐震性があるのかもわかっていない状態だが、学校施設に移行する際にはちゃんと耐震診断をして、必要に応じて耐震改修をして、安全な状態で施設を引き継ぐこととしている。(生涯学習課長)

- ・ 学校に引き継ぐ部分はわかったが、私たち市民が使う場合の安全性はどうか。もしかしたら危ないかもしれない。(上関みさ委員)

→ 建物があるスポーツ施設については、面積や階数によって、耐震診断をしなければならない要件が定められているが、その要件に満たない施設については、耐震基準年以前に建設された施設であっても、強度的には問題ないという考え方に基づいている。基本的には、日常利用していただく分にはすぐに安全性に問題があるということはない。Is 値の基準では震度 6 以上で倒壊の恐れがある、ということになっているので、日常ですぐに倒壊するということはまずないので、普通に使っていたいて問題ない。(スポーツ推進係)

VI スポーツ施設の評価結果（全体）

特になし

5 その他

(事務局から) 本日の資料については、全て部外秘とするので、取扱いには十分注意願いたい。途中段階での表現が独り歩きするのは困るので、情報管理の徹底をお願いしたい。

次回会議の日程については、8月26日(水)13:30からリアスホール1階マルチスペースを予定している。次の会議まであまり日数がないので、あらかじめ連絡しておきたい。詳細については、文書でお知らせする。

6 閉会